大正・昭和前期の舞踊教育
——日本体育会・石橋蔵五郎・赤間雅彦について——

中野　祐子

目　次

問題提起
1. 大正・昭和前期の日本体育会の舞踊教育
　1) 「学校体操教授要目」等と舞踊教育
　2) 日本体育会の歩み
　3) 日本体育会の舞踊教育の指導者とその周辺
2. 大正・昭和前期の石橋蔵五郎と赤間雅彦の舞踊教育
　1) 著　書
　2) 舞踊に関する用語
　3) 作品及び作品創作の基本
結　論

問題提起

明治5年の「学制」，明治11年の「教育令」明治19年の「学校令」と，日本の学校教育の近代化が始まり，体育においても，「1878(明治11)年10月，文部省が，(中略)，体操伝習所を設立し，アメリカから医学士リーランド(Leland, G, A, 1850〜1924)を招聘したのを契機に，学校体育は，教育令のもとで本格的に整備着手」*1し，「伝習所の体育法選定に関する活動は，軽体操だけにとどまらず，在来武術，歩兵体操，戸外遊戯の点でも学校体育に貢献している」*2という。この体操伝習所では，坪井玄道が主任教員になり，坪井玄道・田中盛業編「戸外遊戯法ー各戸外運動法」(明治18)は，「軽体操の選定を終えた体操伝習所が，合理的体操と相補う自然運動として欧米書中から選定翻訳した学校遊戯の解説書」*3であり，21の分類項目の1つに，「行進法」がある*4。明治期には，この「戸外遊戯法」の出版年の明治18年以降，学校教育に於ける舞踊系の著書が97冊*5，また，大正・昭和前期には，167冊*6確認されている。

これらの著書の著者名に着目すると，明治期は，男性112対女性3であり，大正・昭和前期は，171対26であり，男性の割合が多く，また，明治期に比較すると，大正・昭和前期には，女性の割合が増えている。

更に，明治期の舞踊教育の特徴は，要約すれば，「下肢の発達」，「律動的動作」，「集団動作の価値」を重視し，「動作と心情」の深い関連に着目した*7，とされている。

続く大正期は，大正デモクラシーという自由な空気を持つ時代といわれ，大正・昭和前期の舞踊教育は，「広く体育，芸術思想を内外に求め，舞踊の進化の過程の上に本質を探り，論的にダンスの特質を抽出しようとした点」*8に特徴を持ち，美意識としては，「心身観をひろげ，優美優雅志向の美意識を反映して，自由と韻律の自然運動にロマンティシズムをおうふつさせた"教材"は，いわゆるマーチング中心の前時代を越えている」*9といわれ，更に，「この期には，男性の論的知見に対する女性の感性的実践，やがて教育研究分野から男性が去り，女性のダンスへの移行を予想させる，これらの背景と問題点」*10という指摘がみられる。

また，学校における舞踊教育の歩みの中で，とくに注目されるのは，東京女子高等師範学校で教鞭をとった指導者たちで，大正・昭和前期においては，二階堂トクヨ，三浦ヒロ，戸倉ハルであり，他方，私学でも，大正11年に，二階堂トクヨが，「二階堂塾」を創立し，大正13年に，藤村トヨが雑誌「婦人と体育」を創刊し，女性の活躍に関する先行研究が見られる。*11

では，大正デモクラシーという自由な空気を持つ時代に，男性は，舞踊教育とどのように関わってきたのでしょうか。既に，大正昭和前期における日本体育会の赤間雅彦の舞踊教育に着目し，その理論と実際を明らかにさせた。*12

本研究は，男性で，大正・昭和前期に舞踊教育に関する著書を持ち，更に，赤間雅彦と共著を持ち，赤間同様に日本体育会に所属していた石橋蔵五郎に着目した。

赤間は，日本体育会出身で昭和4年から1年間ドイツのベルリンを中心に遊戯論等を学んだといわれているが，石橋の履歴については，現在のところ不明な点が多い。しかしながら，著書に着目すると，この期の舞踊教育に関して7冊ずつ持ち，これらの著書の内容を比較検討することによって知見を得ることは可能であると考えた。従って，大正・昭和前期における両者の舞踊教育の理念及び方法を知り，2人の男性の指導者の視点及び男子を対象とした舞踊教育に関する知見を求め，同時代の女性の舞踊教育の指導者との関連から同時代の舞踊教育をより精緻に明らかにさせることを目的とする。

1. 大正・昭和前期の日本体育会と舞踊教育

1) 「学校体操教授要目」等と舞踊教育

大正・昭和前期に関わるものとして，文部省より，明治38年「体操遊戯取調報告書」，大正2年「学校体操教授要目」，大正2年「学校体操教授

要目」の第１次改正，昭和11年「学校体操教授要目」の第２次改正が出され，舞踊関係で使われている名称は，「行進遊戯」，「動作遊戯」（明38年），「発達動作を主とする遊戯」，「行進を主とする遊戯」（大15），「基本練習」，「唱歌遊戯」，「行進遊戯」（昭11）であり，ここでは，各々の対象および作品名が示されている。

2）日本体育会の歩み

日本体育会は，「明治24年（1891年）８月11日東京市牛込区において日高藤吉郎主唱のもとに設立」*13され，創立のねらいは，富国強兵に占める体育の価値を重視し，体育の啓蒙普及を目指」*14すことであった。

国庫補助を受けた明治32年から，経営破綻になった大正３年までは，「日本体育会の準政府機関化」*15と呼ばれ，その後，日本体育会が，存続した意味は，近代国家に欠かせない国民体育を推進する力」*16としてであるといわれている。更に，「大正12年以降は，入学志願者，採用学生数等が年々増加し，この時期には，「本邦体育指導者の大部分を体操学校の卒業生が占めるという点で新しい使命を担う」*17ことになり，日本体育会体操学校の指導内容は，体育界に大きな影響力を持っていたと考えられる。

3）日本体育会の舞踊教育の指導者とその周辺

舞踊教育関係の著書・編書から，日本体育会体操専門学校教授石橋蔵五郎及び赤間雅彦の共著者・共編者をあげると，津崎亥九生，内堀武夫，寺岡英吉，乙訓鯛助，宮原義見，可児徳，坪井玄道等の名前がみられる。

2. 大正・昭和初期の石橋蔵五郎と赤間雅彦の舞踊教育の比較

1）著　書

石橋蔵五郎及び赤間雅彦の大正・昭和初期の舞踊教育関係の著書は，下記の通りである。

A．石橋蔵五郎著書

①大正元年　「スクールダンス」　金港堂　寺岡英吉と共著

②大正元年　「小学校体操遊戯に関する所見及細目協定」　発行所不明　乙訓鯛助と共著

③大正５年　「教科適用小学校新遊戯書」　浅野書店　柿沼脩治と共著

④大正８年　「理論実際競技と遊戯」　中文館　寺岡英吉と共著

⑤大正８年　「小学校に於ける遊戯教授の真髄」　中文館　寺岡英吉と共著

⑥大正14年　「理論実際大正幼年遊戯」　中文館　宮原義見と共著

⑦昭和３年　「教室内の体操と遊戯」　中文館　赤間雅彦と共著

B．赤間雅彦著書

①大正14年　「童謡遊戯と体育ダンス」　さゝや出版部

②大正15年　「改正要目準拠　小学校体操科教授要目」　津崎亥九生と共著

③昭和２年　「理論実際唱歌遊戯と行進遊戯」　浅見文林堂

④昭和３年　「教室内の体操と遊戯」　浅見文林堂

⑤昭和８年　「基本体育舞踊の理論と実際」　厚生閣書店

⑥昭和８年　「健康体操と体育民踊」　産業福利協会

⑦昭和10年　「学校舞踊新教材集」　出版社不明

以上，両者とも７冊の著書があり，石橋が，単著０，共著７に対し，赤間は単著５，共著２である。

以下，上記の石橋の文献をA①……A⑦，赤間の文献をB①……B⑦と示す。ただし，A⑦とB④は同一文献なので，A⑦B④と示す。尚，文献入手の都合上，A②，B②，B⑦については，本研究の対象から除外した。また，明治期の石橋蔵五郎の舞踊教育関係の著書は，本研究の対象とはしていないが，明治34年から45年までの間に10冊ある。

2）舞踊に関する用語

A．石橋蔵五郎は，書名の中で，「スクールダンス」（文献A①）を使い，他は，「遊戯」の中に含めている。書中には，「遊戯」の分類を示す言葉として，「動作的遊戯」，「行進的遊戯」（文献A③），「行進遊戯」，「動作遊戯」（文献A④，⑤），「スクールダンス」，「表情遊戯」，「童踊」（文献A⑥），「唱歌遊戯」（文献A⑦B④）が見られる。次に，書名及び書中に示された上記の８種類の名称の定義について検討を加えることにする。

〈1〉「スクールダンス」とは，文献A①では，「舞踏」であり，「円舞」，「列舞」，「対向舞」，「方舞」等の分類が見られる。文献A⑥では，「一般的に歴史的に伝わったダンスの中から，教育的，体育的見地より理想のものを選択したものが，体育ダンスであるが，現代に於ては，体育教師の創作にかゝる，教材をも包含する事になる。この体育ダンスは，其他諸種の条件のもとに選択せられなければならない。これをスクールダンスと命名した」*20という。

〈2〉「動作的遊戯」及び「行進的遊戯」について，「動作的遊戯」とは，「主として幼年児童に適するものにして児童の旺盛なる活動力と鋭敏なる模倣性を利用して全身の健康を増進し，精神を壮快ならしめ，兼て規律を守り，共同を尚ぶの，習慣を養ふものなり」*23とし，特に，「主に体育的にして往々世に行はるゝ物真似的，表情的とは，少しく異なれり」*22とし，幼年児童を対象とした，

模倣的な体育であるとしている。他方，「行進的遊戯」について，「なるべく小学校時代より，行進的遊戯に熟練せしめ，身体の端正と挙止の閑雅とに慣れしめ，兼て邦人の脚を強健優美ならしめん」*23とし，小学生以上を対象に，端正，閑雅，優美という美意識と，脚の発達をねらうものと見られる。

〈3〉「行進遊戯」及び「動作遊戯」は，文献A④，⑤の両方にあり，各々の意味はほぼ同じと見られる。即ち，「動作遊戯は唱歌の意味を動作の上に表現する一種の教育的運動法にして，幼稚園の幼児及び尋常1・2年の児童に行はしむる適当なる遊戯なり」*24とし，別称「表情遊戯」，「発達遊戯」，「児童遊戯」とし，この5種類の名称には，区別がない。他方，「行進遊戯」は，文献A⑤において，「行進遊戯は小学校女児及び中等学校女生徒にのみ課するところの教材にして，其長所とする所は精細なる筋肉の習練にあり」*26とし，また，文献A④において，「行進遊戯とは歩行及び歩行の変形，跳躍の変形を生理的の原理に基きて適切に組織し，被教育者の身体に良好なる結果を与ふると同時に，精神上にも良好なる結果を与ふる一種の教育的運動法なり」*27と定義している。

〈4〉「表情遊戯」，「童踊」について，「表情遊戯，の様なものは次の事項を具備しなければならぬと思ふ。1．歌曲は快活な情緒を起こさしむるものなること，2．余りに快活でなく，却って，悲哀の情を起こすも教育上，一定の目的を有するものは可ならんも，余りに体育的教材としては採用できぬものである。3．動作は可成体育的にして，運動量大にして，特に身体上の優美の姿勢の養成に適切なるものたること。4．局部内の運動に陥らざること，5．沈静，悲哀なる歌曲は之を採用せざること」*28とし，「表情遊戯」と「童踊」の区別は，「表情遊戯も童踊も其の本質においては，律を主とせるものであって，この律に調和して，身体を運動せしむる点に於いては同一である。只，幼稚園の如く，幼年向の教材に童踊と命名したに過ぎない」*29とし，対象で区別している。

〈5〉「唱歌遊戯」とは，「我々の体をリズム的に動かさしむる教材」*30であり，「最も平易にして，最も愉快に，そして歌へば踊り，踊らば歌わざるを得ないというようなもの」とし，歌を伴った愉快でリズミカルな身体運動ととらえられる。

B．赤間雅彦は，書名の中で，「童謡遊戯」「体育ダンス」（文献B①），「唱歌遊戯」，「行進遊戯」（文献B③），「体育民謡」（文献B⑥）、「学校舞踊」（文献B⑦）という7種類の舞踊に関する名称を用い，書中では，「表情遊戯」（文献B①），「唱歌遊戯」（文献A⑦B④）も用いている。

3）舞踊の教育的価値

A．石橋蔵五郎の著書の中で，「教育的価値」と名付けてあるのは，文献A⑥の「表情，及童謡の教育的価値」だけであり，その内容は，「表情，及童謡の教材を分解的に施行するときは，言語，（所謂文字），感情，曲（所謂リズム）の三要素となる」と述べているにすぎず，教育論が見られない。

B．赤間雅彦の場合は，文献B①に，「教育的価値」として「興味」，「調律訓練」，「音楽」，「美学」「硬教育の緩和」，「解剖学」，「進化論」という7つの視点からの考察，更に，文献B③に，「音楽」，「興味」，「訓練」，「生理解剖」，「進化論」，「美学」という6つの視点からの考察がみられる。以上より，赤間が舞踊に対して認める教育的価値は，次の6つにまとめられる。

〈1〉心理的に体操よりも興味を持ちやすいこと
〈2〉律動運動による心理的快感が得られること
〈3〉音楽を使って踊ることによる感情の陶冶及び音楽教育への貢献
〈4〉生活に必要な美的運動であること
〈5〉小筋を動かす運動であること
〈6〉自然運動であること，である。

4）作品及び作品創作の基本

A．石橋の総作品数は，307作品で，石橋の示した分類別作品数は，「方舞」16，「対向舞」3，「円舞」7，「横隊舞」2，「縦列舞」8，「動作的遊戯」49，「行進遊戯」53，「分列行進遊戯」6，「円形行進遊戯」14，「対向行進遊戯」2，「横隊行進遊戯」1，「縦列遊戯」2，「動作遊戯」35，「行進遊戯」47，「スクールダンス」25，「表情遊戯」25，「童踊」12，「唱歌遊戯」12となる。これらを，唱歌を伴わない「行進遊戯」と，唱歌を伴う「唱歌遊戯」とに分類すると，「行進遊戯」186，「唱歌遊戯」121となり，「行進遊戯」の方が多い。

対象は，227作品に記述され，その内訳を見ると，尋常小学校児童を対象とした作品が213であり，残りの14作品は，高等小学校及び高等女学校生徒を対象としている。但し，小学生を対象とした作品の中には，幼児や高等女学校等の組も含む。また，対象の性別は，97作品に記述され，内訳は，文献A④47作品，文献A④50作品で，前者では，小学校低学年が男女共習，中学年以上が女子中心，後者では，低学年が共習，中学年以上が女子中心とは限らず，15作品が共習で，この中に，「尋常科第6学年以上の男子」を対象とした唯一の作品「ベースボールダンス」もみられる。

尚，作品の振り付けは，書中に記述がなく，不明である。

更に，作品の歌曲は，文献A④とA⑥の一部に記述され，文献A④の「動作遊戯」では，「文部

省尋常小学校唱歌」が13作品，「歌曲編者作」が３作品（「軍艫」，「盲鬼」，「雁」）ある。A⑥の「表情遊戯」では，「文部省尋常小学校唱歌」が８作品，「編者作曲，歌詞（編者作）」が９作品（「小馬」，「お月様」，「運動」，「蜻蛉」，「富士山」，「盲鬼」，「雁」，「軍艦」，「子犬」），他に，作曲者として，田村虎蔵，本元子の名前が見られる。

B．赤間の総作品数は96で，内訳は，「唱歌遊戯」61，「行進遊戯」25，「体育民謡」10である。

作品の対象は，「唱歌遊戯」が小学校低学年中心，「行進遊戯」が小学校高学年以上，「体育民謡」が勤労者となっている。

振付は，作品の中に，赤間の振付として明記されているものがある。

歌曲の中に，作詞者として，北原白秋，宮原義徳，水谷まさを，等の名前，また，作曲者として，佐々木すぐる，芝祐泰等の名前が見られる。

赤間は，作品の他に，「体育舞踊の基本」として25種類の基本項目（「正しい直立の姿勢」，「礼」，「５つの標準的ポジション」，「跳躍歩の練習」等）を示し，これらの項目の内容の特徴として，1)「自然」の強調，2)クラシック・バレエの基礎の導入，3)「優雅さ」，「優美さ」の重視，4)動きとイメージとを結びつけた基礎練習の導入があげられる。

結　　論

1．石橋蔵五郎と赤間雅彦は，日本体育会体操学校教授として，舞踊教育と関わった。大正・昭和前期の両者の舞踊教育関係の著書数は各７冊で，石橋は単著がなくすべて共著であり，赤間は単著５冊，共著２冊となっている。尚，石橋には他に，明治期に10冊の舞踊関係の共著がある。大正３年以降の日本体育会は，国民体育の推進の道を歩み，大正12年以降は，学生数が年々増加し，「体育指導者の大部分を体操学校の卒業生が占め」*18ていたので，この点で，両者の影響力は大きかったと考えられる。

2．舞踊に関する用語として，石橋は，「スクールダンス」，「動作的遊戯」，「行進的遊戯」，「行進遊戯」，「動作遊戯」，「童踊」という名称を用いて舞踊作品を示し，赤間は，「唱歌遊戯」，「行進遊戯」，「体育民踊」を用いている。

これらの用語の区別は，石橋の場合，著書毎に示され，一部には統一性も見られる。しかしながら，例えば，「蜻蛉」という舞踊作品が，「動作遊戯」（文献A⑤），「表情遊戯」（文献A⑥），「唱歌遊戯」（文献A⑦B④）として示されているという不一致が見られる。これは，石橋が，「動作遊戯」，「表情遊戯」，「発表遊戯」，「唱歌遊戯」，「児童遊戯」の５種類の名称に区別がないと考えているからと言われているが，繁雑になっていると思われる。

他方，赤間の場合は，唱歌を伴い，幼児・小学校低学年程度の子供を対象とした用語は，「童謡遊戯」及び「唱歌遊戯」，唱歌を伴い，小学校高学年以上を対象とした用語は，「表情遊戯」，唱歌を伴なわないダンスの用語は「行進遊戯」，民踊を基調とした用語は「体育民踊」と区別している。

3．舞踊の教育的価値について，石橋の著書の中には，論として明示されたものはない。

他方，赤間の場合は，「教育的価値」と明示され，その内容は，「興味」，「調律的訓練」，「音楽」，「美学」，「硬教育」，「解剖学」，「進化論」から考察されている。

4．書中に示された舞踊作品の総数は，石橋が307，赤間が96で，石橋のほうが多い。更に，唱歌を伴なわない「行進遊戯」と，唱歌を伴なう「唱歌遊戯」の２つに分類してみると，石橋は，「行進遊戯」186，「唱歌遊戯」121となり，「行進遊戯」のほうが多く，赤間は「行進遊戯」25，「唱歌遊戯」61となり，「唱歌遊戯」のほうが多い。

5．では，この２人の実践は，この期の舞踊の教育研究の中でどのような特徴を持ち，今日の私達に何を示唆するのかという点についてここで考察していくことにする。

1）まず，諸外国の様々な舞踊文化が導入され，学校教育への定着化の過程において，欧米の舞踊を教育・体育の視点から選択し，そのまま示した「スクールダンス」及び各種歩法があり，また，文部省尋常小学校唱歌及び新しく創作した日本の歌曲を利用して振付した「唱歌遊戯」等の違いがうかがえる。

この期の女性のおもな指導者達はこの点についてどのように行っていたかについてみると，二階堂トクヨの場合は，イギリスに留学後（大正４年），「女高師で教えたダンスは，トクヨの創作である『三人遊び』，イギリスのフォークダンス『ブラックナッグ』，『ギャザリンピースカッツ』，アイルランドのフォークダンス『ロブスタージッグ』や既に井口あくりが日本に移入していた『ファースト』や『ポルカセリーズ』等であった」*33とされ，外国の舞踊作品の導入と自作の作品とを指導している。三浦ヒロの場合は，ヨーロッパ留学から帰国後，「大工さん」，「汽車」，「お休みなさい」等の創作と「チルドレンポルカ」，「ワルゾヴィナ」等のフォークダンスを示し*34，やはり，外国の舞踊作品と，自作の作品を指導している。また，戸倉ハルの場合は，「人形」（昭２），「富士の雪帽子」（昭６），「朧月夜」（昭11）等の創作がみられ*35，自作の作品を指導している。こ

れらと比較すると，石橋及び赤間の方法は，同時代のこれらの指導者と同様に，外国の作品をそのまま示したものと，自作の作品との両方がみられ，赤間のほうが自作の割合が多い。

2）次に，学校と社会との関わりという視点から，この期の社会における舞踊教育についてみると，例えば，二階堂トクヨ，三浦ヒロ，戸倉ハル，あるいは石橋蔵五郎には見られないが，赤間は，「体育民踊」即ち日本の民謡と体育とを結び付けた具体的作品と，「工場体育」での実践が見られた。従って，この期の指導者の中で，赤間は，学校と社会との両方に視野を持ち，各々の舞踊教育を実践していた事に彼の特徴を見ることができよう。

3）また，ダンスの男女共習という視点から，この期には，共習が幼児期及び小学校期には見られることが一般的である中で，石橋の著書の中に，中学生以上の男子をも対象とした舞踊作品「ベースボールダンス」が示されている。これは，男子生徒を対象としたダンスが示されたという点で特記すべき事項であろう。

4）最後に，舞踊を教育研究する男性の指導者が，この期に多数存在しながら，次々に姿を消していく理由を，２人の事例を手掛りにしてみると，まず第一に，外来舞踊の導入による「優美」，「優雅」志向の美意識が強まり，この美意識と女性とが，結び付いていったことがあげられる。

例えば，二階堂トクヨの場合は，女子の体育は女子の手で」*36と述べ，また，「一般人や子供向の保護愛育的体育の重要性を強調し」*37，更に，「スウェーデン体操４領域のうち，優美体操(舞踊)を女子に向いたものとし，独自なものを作り，発展させたいと考えていた。その理由は，優美体操が曲線的運動であるばかりではなく，民族の女性的精神の発露したものと考えていたからである」*38とし，女性指導者の手による優美・優雅志向の舞踊教育を強調している。

石橋や赤間の場合も，例えば，「動作はかなり体育的にして，運動量大にして，特に身体上の優美の姿勢の養成に適切なるものたる事」（文献Ａ⑥）或いは，「真の唱歌遊戯は，……生理解剖の原則に反しない立派な優美な姿態の表情である」（文献Ｂ③）とあり，優美・優雅志向が見られ，男性指導者自ら優美・優雅志向の舞踊教育の主張をしている。

第二に，石橋の事例に見られるように，著書では「遊戯」の一部として，また，赤間の事例に見られるように，著書では，「体操」と「舞踊」として，「行進遊戯」や「唱歌遊戯」等を示し，必ずしも舞踊の教育研究だけの専門家である必要がなく，狭い意味での専門家でなくても著書を出版する時代であったことがその要因として考えられる。

今回は，多数存在する男性指導者のうち，石橋・赤間という２人の事例から考察を進めたが，今後は事例を増やし，総合的に理解していきたいと考えている。

末筆ではありますが，本論文作成にあたりお力添え賜りました松本千代栄，片岡康子両先生に感謝申し上げます。

註

＊１・２　水野忠文他「体育史概説」　杏林書院　1961　p.245
＊３　「体育・スポーツ書解題」　不昧堂　昭56　p.7
＊４　坪井玄道・田中盛業編「戸外遊戯法－名戸外運動法」　金港堂　明18
＊５　松本千代栄・香山知子「明治期の舞踊的遊戯－その精神と技術の様相－」　舞踊学４号　1981　p.9
＊６　松本千代栄・安村清美「大正・昭和前期の舞踊教育(Ⅰ)－『遊戯』から『ダンス』へ－」　舞踊学６号　1983　p.14～17
＊７　前掲書＊５　p.8
＊８～10　前掲書＊６　p.13
＊11～12　拙著「日本体育会・赤間雅彦の舞踊教育－大正・昭和前期において－」　島根大学教育学部紀要（教育科学）第20巻　昭61　p.127～139
＊13～14　学校法人日本体育会「学校法人日本体育会日本体育大学九十年史」　昭48　＊13　p.27　＊14　p.32
＊15　前掲書＊１　p.255
＊16～18　前掲書＊13　＊16　p.44　＊17, 18　p.45
＊19　石橋蔵五郎・寺岡英吉「スクールダンス」大１　金港堂　p.1～11
＊20　石橋蔵五郎・宮原義見「理論実際大正幼年遊戯」中文館　大14　p.6～7
＊21～23　石橋蔵五郎・柿沼脩治「教科適用小学校新遊戯書」浅野書店　大５　＊21・22　p.2　＊23　p.3
＊24～25　可児徳・石橋蔵五郎・寺岡英吉　「理論実際競技と遊戯」　中文館　大８　p.206
＊26　石橋蔵五郎「小学校に於ける唱歌遊戯の真髄」中文館　大８　p.26
＊27　前掲書＊24　p.197
＊28～29　前掲書＊20　＊28　p.10～11　＊29　p.12
＊30～31　赤間雅彦・石橋蔵五郎「教室内の体操と遊戯」　浅見文林堂　昭２　p.162
＊32　前掲書＊20　p.14
＊33　西村絢子「体育に生涯をかけた女性－二階堂トクヨ－」　杏林書院　昭58　p.169
＊34　安村清美「芸術教育と舞踊教育－三浦ヒロの思想と実践－」　舞踊学７号　1984　p.25～28
＊35　岡野理子「大正・昭和前期の舞踊教育－戸倉ハルとその時代(2)－」　舞踊学８号　1985　p.24
＊36～38　前掲書＊33　＊36　p.171　＊37　p.146　＊38　p.169

表 1.　赤間雅彦作品一覧（大正・昭和前期）

文献名	分類の種類	No.	作品名
「童謡遊戯と体育ダンス」ささや出版（T. 14. 10）	教材	1	雨だれぽっつりさん
		2	どんどん土橋
		3	青蛙
		4	蛍のお宿
		5	虹
		6	夕焼
		7	花咲爺さん
		8	兎の電報
		9	青い鳥
		10	春風のおどり
		11	月の砂漠
		12	青い月夜の青い鳥
		13	はっぱ
		14	揺籠の歌
		15	夕焼小焼
		16	里心
		17	雪の降る夜
		18	雨
		19	朧月夜
		20	故郷の空
		21	浜千鳥
		22	ドナウ河の漣
		23	サークルダンス
		24	羽衣の舞
		25	スプリングダンス
		26	ツーホワーエートバーンダンス
		27	ジムナスティックダンスA
		28	ジムナスティックダンスB
		29	白鳥の舞
		30	ベースボールダンス
「理論実際唱歌遊戯と行進遊戯」浅見文林堂（S. 2. 6）	唱歌遊戯	1	雨だれぽっつりさん
		2	はっぱ
		3	揺籠の歌
		4	里心
		5	どんどん土橋
		6	青蛙
		7	青い鳥
		8	月の砂漠
		9	春風のおどり・
		10	螢のお宿
		11	虹
		12	夕焼小焼
		13	青い月夜の青い鳥
		14	兎の電報
		15	夕焼
		16	故郷の空
		17	花咲爺さん
		18	朧月夜
		19	雪の降る夜
		20	雨
		21	浜千鳥
		22	ドナウ河の漣
		23	日の丸の旗
		24	鳩
		25	桃太郎
		26	案山子
		27	春が来た
	行進遊戯	28	スプリング・ダンス
		29	はごろも
		30	ベースボール・ダンス
		31	白鳥の舞
		32	ジムナスティック・ダンスA
		33	ジムナスティック・ダンスB
		34	サークル・ダンス
		35	バーン・ダンス
		36	渦巻行進
		37	十字行進
		38	プロムネード
		39	セブン・ヂャンプス
		40	マウンテン・マーチ
		41	スケーチング・ダンス
		42	クワドリール
		43	ポルカ・セリアス
		44	ミニュエット
「教室内の体操と遊戯」浅見文林堂（石橋蔵五郎と共著）（S. 3. 4）	唱歌遊戯	1	兎の電報
		2	山雀太夫
		3	雪だるま
		4	釣鐘草
		5	蜻蛉
		6	田圃中
		7	夕立小立
		8	椰子の実
		9	山家の雨
		10	三匹の蛙
		11	友のつどい
		12	薔薇の精
「健康体操と体育民踊」産業福利協会（S. 8. 12）	体育民踊	1	伊勢津小唄
		2	木曽節
		3	佐渡おけさ
		4	伊那節
		5	上州小唄
		6	龍狭小唄
		7	旗は日の丸
		8	糸引く娘
		9	機織娘
		10	高松小唄

表 2.　石橋蔵五郎作品一覧（大正・昭和前期）

文献名	分類の種類	No.	作品名
「スクールダンス」金港堂書籍（寺岡英吉と共著）（T. 1. 8）	方部	1	ニューノーマルダンス
		2	ノーマルダンス
		3	シングル、クワドリール
		4	コチロン、クワドリール
		5	カレドニアンス
		6	シングル、ランサアース
		7	ゼルマン、ランサアース
		8	サラドガ、ランサアース
		9	ニューランサアース
	対向舞	10	ゼルマン、クワドリール
		11	ブレーン、クワドリール
		12	ノーマルダンス（其9）
	円舞	13	スプリングダンス（其10）
		14	バーンダンス
		15	スケーチングダンス
		16	アバンダント、ダンス（其4）
		17	ノーマルサークル（其2）
		18	キャプテンダンス（其1）
		19	〃（其4）
	横隊舞	20	〃（其7）
		21	〃（其8）

文献名	分類の種類	No.	作品名
	縦列舞	22	ミックスダンス（其２）
		23	ミニュエット（其１）
		24	〃　（其３）
		25	〃　（其４）
		26	〃　（其５）
		27	〃　（其６）
		28	〃　（其７）
		29	〃　（其９）
「教科適用小学校新遊戯書」浅野書店（柿沼脩治と共著）（T. 5. 8）	動作的遊戯	1	日の丸の旗
		2	鳩
		3	桃太郎
		4	池の鯉
		5	池の鯉
		6	鳥
		7	月
		8	木の葉
		9	桜
		10	雲雀
		11	小馬
		12	蛙と雲
		13	浦島太郎
		14	案山子
		15	富士山
		16	大和男子
	行進的遊戯	17	等分行進
	動作的遊戯	18	かがやく光
		19	村祭
	行進的遊戯	20	階段歩
		21	後置歩
		22	叩歩
		23	連鎖行進
	動作的遊戯	24	何事も精神
	行進的遊戯	25	観鳥歩
		26	水鶏歩
		27	蘇格蘭跳歩
		28	摺足
		29	十字循環行進
		30	ツバメ
	動作的遊戯	31	大和桜
	行進的遊戯	32	重複蘇歩
		33	上跳躍歩
		34	揺籃歩
		35	スケーチング
		36	ショツテス、ダンス（甲種）
		37	〃　（乙種）
		38	コントラダンス
		39	方形行進
		40	振脚跳歩
		41	歩行回転歩
		42	交差回転歩
		43	腫趾水鶏歩
		44	下跳躍歩
		45	駈歩（ガロッブ）
		46	膝曲歩
		47	サークル、ダンス
		48	米国式、クワドリール
		49	英国式、クワドリール
		50	カレドニアン
		51	シングル、クワドリール
		52	シングル、ランサース
		53	ダブル、ランサース
		54	サラトガ、ランサース
	動作的遊戯	55	タコノウタ
		56	おきあがりこぼし
		57	アサガホ
		58	ひらいたひらいた
		59	お早ふ
		60	ひばり
		61	鶯
		62	さくら
		63	金太郎
		64	桃太郎
		65	牛若丸
		66	花咲爺
		67	ほたる
		68	お月様
		69	浦島太郎
		70	富士山
		71	日本の国
		72	兎とかめ
		73	運動会
		74	ほーねん祭り
		75	小さき砂
		76	きんしくんしやう
		77	雪だるま
		78	たうえ
		79	漁業
		80	元冠
		81	春の遊び
		82	箱根山
		83	川中島
	行進的遊戯	84	十字循環行進
		85	ハイランド、ショッテス
		86	バンダンス
		87	ヒール、エンド、トー
		88	ベビー、ダンス
		89	ベビー、ポルカ
		90	スケーチング、ポルカ
		91	ダイアモンド、ポルカ
		92	マーチ、ポルカ
		93	クロス、ポルカ
		94	ロッチェスター、ショッテス
		95	三拍子ライゲン
		96	天女の舞（甲種）
		97	〃　（乙種）
		98	アメリカン、ダンス
		99	ラウンド、クワドリール
		100	ダブル、クワドリール
		101	コレジアン、ランサース
		102	コチロン
「理論実際競技と遊戯」中文館（可児徳，寺岡英吉と共著）（T. 8. 3）	分列行進遊戯	1	ダブル、サークル
		2	分列行進（其１）
		3	〃　（其２）
		4	十字行進
		5	方形行進（其１）
		6	〃　（其２）
	円形行進遊戯	7	グランド、チェイン
		8	旋回行進（其１）
		9	〃　（其２）
		10	〃　（其３）

文献名	分類の種類	No.	作品名
		11	バーン、ダンス
		12	スケーチング、ダンス
		13	スプリング、ダンス
		14	ジオリイダンス
		15	ミックスダンス
		16	グラツドサーム（其１）
		17	〃　（其２）
		18	キャプテインダンス
		19	ヴィクトリィダンス（其1）
		20	〃　（其2）
	対向行進遊戯	21	ゼルマン、クワドリール
		22	ノーマルダンス
	横隊　〃	23	キャプチェンダンス
	縦列遊戯	24	ミックスダンス
		25	ミニュエット
	方舞	26	ニュー、ノーマルダンス
		27	ノーマルダンス
		28	シングル、クワドリール
		29	コチロン、クワドリール
		30	カレドニアンス
		31	シングル、ランサース
		32	行進旗体操
	動作遊戯	33	鳩
		34	桃太郎
		35	月
		36	鳥
		37	小馬
		38	蛙と蜘蛛
		39	富士山
		40	軍艦
		41	盲鬼
		42	人形
		43	雁
		44	池の鯉
		45	兎
		46	紙鳶
		47	牛若丸
		48	浦島太郎
		49	楽隊遊び
		50	蜻蛉
「小学校に於ける遊戯教授の真髄」中文館（寺岡英吉と共著）（T. 8.11）	行進遊戯	1	ダブルサークル
		2	分列行進（其１）
		3	グランドチェイン
		4	旋回行進
	動作遊戯	5	鳩
		6	桃太郎
		7	からす
		8	人形
		9	兎
		10	紙鳶
		11	牛若丸
		12	楽隊遊び
	行進遊戯	13	ダブルサークル
		14	分列行進
		15	グランドチェイン
		16	旋回行進（其１）
	動作遊戯	17	小馬
		18	軍艦
		19	盲鬼
		20	蛙と蜘蛛
		21	雁
		22	池の鯉
		23	富士山
		24	浦島太郎
		25	蜻蛉
	行進遊戯	26	分列行進
		27	グランドチェイン
		28	旋回行進（其1, 其2, 其3）
		29	十字行進
		30	方形行進（其２）
		31	旋回行進
		32	分列行進
		33	バーンダンス
		34	方形行進
		35	バーンダンス
		36	スケーチングダンス
		37	分列行進
		38	スプリングダンス
		39	行進旗体操
		40	ミニュエット
		41	方形行進
		42	バーンダンス
		43	スケーチングダンス
		44	スプリングダンス
		45	ジオリィダンス
		46	ゼルマンクワドリール
		47	ミニュエット
		48	ニューノーマルダンス
		49	方形行進
		50	バーンダンス
		51	スケーチングダンス
		52	スプリングダンス
		53	ジオリィダンス
		54	ミックスダンス
		55	グランドサーム
		56	キャプテイダンス
		57	ヴィクトリィダンス
		58	ゼルマンクワドリール
		59	ノーマルダンス
		60	ニューノーマルダンス
		61	シングルクワドリール
		62	コチロンクワドリール
		63	カレドニアン
		64	シングルランサース
「理論実際大正幼年遊戯」中文館（宮原義見と共著）（T.14. 9）	スクールダンス	1	リットル、シスター、カム、ウィズ、ミー
		2	クイック、マーチ
		3	フレンチ、ダンス
		4	ホップ、マザー、モニカ
		5	マイブラザー
		6	キャアベジ、フイルド
		7	ホップ、アンド、ターン
		8	リトカ
		9	スプリング、ダンス
		10	ジェネラル、ダンス
		11	コントラ、ダンス
		12	クラップ、ダンス
		13	アバンダント、ダンス
		14	シューメーカー、ダンス
		15	セブン、ジャンプス
		16	テイラー、ダンス

文献名	分類の種類	No.	作品名
		17	バルーン、ダンス
		18	ライジング、サン
		19	ヂャーマン、ダンス
		20	ベース、ボール、ダンス
		21	インデャン、ダンス
		22	ハッピー、ダンス
		23	セーラー、ダンス
		24	ロッチェスター、ショッチス
		25	チルドレン、ダンス
	表情遊戯	26	花咲爺
		27	雪
		28	雲雀
		29	桜
		30	汽車
		31	我は海の子
		32	朧月夜
		33	漁業の歌
		34	旅泊
		35	蝉
		36	農夫
		37	秋の山
		38	虫の声
		39	水車
		40	紅葉
		41	木馬
		42	お月様
		43	運動
		44	蜻蛉
		45	富士山
		46	人形
		47	盲鬼
		48	雁
		49	軍艦
		50	子犬
	童踊	51	たんぽぽ
		52	お早う
		53	大池小池
		54	雨だれ真珠
		55	柳のぶらんこ
		56	お月様と遊ぼう
		57	楽隊遊び
		58	兎と亀
		59	かへるのこ
		60	日暮
		61	雀鳥
		62	蜜蜂
「教室内の体操と遊戯」中文館（赤間雅彦と共著）（S. 3. 4）	唱歌遊戯	1	兎の電報
		2	山雀太夫
		3	雪だるま
		4	釣鐘草
		5	蜻蛉
		6	田圃中
		7	夕立小立
		8	椰子の実
		9	山家の雨
		10	三匹の蛙
		11	友のつどひ
		12	薔薇の精